

緊急課題解決2

命と地域を支える道づくりプロジェクト

【主担当部局：県土整備部】

プロジェクトの目標

社会基盤である幹線道路等の整備を進めることにより、大規模地震や異常気象による集中豪雨等の自然災害の脅威に対して地域の安全・安心を支えるとともに、北・中部地域の産業、南部地域の観光など地域の今ある力を生かした新しい三重づくりが進んでいます。

評価結果をふまえたプロジェクトの進展度と判断理由

進展度	判断理由
*	

【*進展度：A（進んだ）、B（ある程度進んだ）、C（あまり進まなかった）、D（進まなかった）】

プロジェクトの数値目標

目標項目	23年度	24年度	25年度	26年度		27年度
	現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値
命と地域を支える道の供用延長	/	86.8km	129.7km	141.7km		147.8km
	74.6km	86.8km	128.0km			/

目標項目の説明と平成27年度目標値の考え方

目標項目の説明	県内の高規格幹線道路や主要な直轄国道、地域高規格道路、アクセス道路の供用延長
27年度目標値の考え方	新名神高速道路および東海環状自動車道を新規供用することをめざし、目標値を設定しました。

実践取組の目標

実践取組	実践取組の目標	23年度	24年度	25年度	26年度		27年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値
1 「命を支える道づくりに向けた課題」を解決するために	命を支える道の供用延長	/	55.5km	86.8km	88.6km		88.6km
		43.3km	55.5km	87.3km			/
2 「地域を支える道づくりに向けた課題」を解決するために	地域を支える道の供用延長	/	31.3km	42.9km	53.1km		59.2km
		31.3km	31.3km	40.7km			/

(単位：百万円)

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
予算額等	19,618	17,286	17,556	

平成 26 年度の取組概要

- ① 交通需要への対応と交通渋滞の解消および、災害時の緊急輸送や代替ルートの確保に向け、新名神高速道路、東海環状自動車道、北勢バイパス、中勢バイパスや桑名東部拡幅（伊勢大橋架替）等の整備促進を図るとともに、これらと一体となった道路ネットワークの形成に向け、四日市湯の山道路等の県管理道路の整備を推進（9月末実績見込：4.4km）
- ② 新たな道路網の構築を目指し、北勢バイパスの未事業化区間の早期事業化に向けた取組や、鈴鹿亀山道路の都市計画決定に向けた検討や関係機関との協議および環境影響法に基づく手続き・調査、名神名阪連絡道路の事業化に向けた検討を進めます。また、平成 33 年の国民体育大会開催に向け、県外からのアクセスや競技会場へのアクセスを向上させる道路整備や会場周辺における道路環境づくり（歩道整備、道路標識の設置、舗装修繕等）について、国や市町等と連携し検討を推進
- ③ 近畿自動車道紀勢線の熊野尾鷲道路（Ⅱ期）および新宮紀宝道路、熊野道路の整備促進を図るとともに、市町や地域住民をはじめ関係者と一体となって、未事業化区間（熊野 I C（仮称）～紀宝 I C（仮称））の早期事業化に向けた取組を推進

【中間進捗情報】

平成 26 年度の上半期の成果と残された課題

- ① 新名神高速道路については、平成 30 年度の全線供用に向け、用地取得率が約 95%、工事発注率が約 90%となるなど、順調に事業が進捗しています。東海環状自動車道については、平成 32 年度の全線供用に向け、県も本年度から国等と連携して北勢 I C から岐阜県境間の用地取得を開始しました。北勢バイパスおよび中勢バイパスについては、今年度内の一部供用に向け順調に工事が進捗しています。桑名東部拡幅（伊勢大橋架替）については、今年度からの河川内の工事着手に向け、準備を進めています。四日市湯の山道路については、高角 I C から県道四日市菰野大安線（通称：ミルクロード）間約 4.4km が平成 26 年 5 月 24 日に供用開始し、四日市市街地と菰野町を結ぶ新たなネットワークが形成され、現道交通の減少、渋滞の緩和、移動時間の短縮が図られました。また、東海環状自動車道（大安 I C～東員 I C）約 6.1km および中勢バイパス（鈴鹿市御薮町～津市河芸町三行）約 2.9km を平成 30 年度開通予定とすることなどが、平成 26 年 4 月に国から新たに公表されました。
- ② 北勢バイパスの未事業化区間の早期事業化に向け、市町と連携し、国などに必要性を訴えかけています。鈴鹿亀山道路については、道路では全国初となる環境影響評価法に基づく配慮書の大臣意見聴取を開始する予定です。また、環境現地調査についても秋から本格的に着手します。名神名阪連絡道路については、国土交通省近畿地方整備局、中部地方整備局、滋賀県および三重県の 4 者で 8 月に調整会議を開催し、事業化に向けた調整を進めています。また、平成 33 年の国民体育大会開催に向け、競技会場候補地の選定状況を随時確認し、決定した各競技会場の周辺道路の状況を各建設事務所と連携して把握したうえで、県管理道路について整備が必要と思われる箇所の検討を進めています。
- ③ 熊野尾鷲道路（Ⅱ期）については、今年度からの工事着手に向け、準備・調整が進められています。新宮紀宝道路については、地元説明会が 7 月に開催され、事業進捗報告と現時点での平面図等が示され、今後、地元の意見を聞きながら予備設計が進められます。熊野道路については、厳選されている中、近畿自動車道紀勢線で 3 年連続の新規事業化となり、早速、8 月末から地元説

明会が開催され、今後、地質調査や測量などの現地調査に入るなど、紀伊半島のミッシングリンクの解消に向け前進しました。また、近畿自動車道紀勢線の早期全線事業化に向け、地元の機運をますます盛り上げるため、昨年度、地域住民の方々が主体となった勉強会を開催し、「この地域の活性化に必要な視点」をとりまとめましたが、その成果を基に議論を深め、地域が望む方向性を見だしていくために、本年度は勉強会を新たに研究会とし、7月に第1回の会議を開催しました。

- ④ 残された課題として、県内の幹線道路網の整備は道半ばにあり、自然災害の脅威は今後一層深刻化することが予測される中、地域の安全・安心を支える幹線道路等の整備が急がれています。また、交通渋滞が頻発している現状に対し、集積する産業や魅力ある観光など地域の今ある力を活かした三重づくりを支える幹線道路等の整備が求められています。また、東海環状自動車道の全線開通時期について、現在、有料道路事業の資金調達を目安として平成32年度予定とされているところですが、正式に国から全線開通時期を公表していただくよう、働きかけていく必要があります。

平成26年度の下半期（翌年度）に向けた改善のポイントと取組方向

〈下半期〉

- ① 北勢バイパス（四日市市垂坂町の市道垂坂1号線～四日市市山之一色町の市道日永八郷線）、中勢バイパス（津市野田の県道家所阿漕停車場線～津市高茶屋小森町の国道165号）、国道260号錦峠の平成26年度中の確実な完成に向け、整備促進を図るとともに、関連する県管理道路や県道神戸長沢線等の整備を推進します。
- ② 北勢バイパスの未事業化区間の早期事業化に向けた取組や、鈴鹿亀山道路の都市計画決定に向けた検討および環境影響法に基づく手続き・調査、名神名阪連絡道路の事業化に向けた検討を進めます。また、平成33年の国民体育大会開催に向け、高規格幹線道路や直轄国道の国民体育大会までの供用を国などに働きかけるとともに、県管理道路の道路整備や会場周辺における道路環境づくりについて、国や市町等と連携し検討を進めます。
- ③ 熊野尾鷲道路（Ⅱ期）および新宮紀宝道路、熊野道路の整備促進を図るとともに、未事業化区間（熊野IC（仮称）～紀宝IC（仮称））の早期事業化に向け、紀勢自動車道、熊野尾鷲道路の整備効果の検討を進め、事業化の必要性を国等に訴えかけるなど、紀伊半島のミッシングリンク解消に向けた取組を推進します。
- ④ 高規格幹線道路および直轄国道に関して、提言活動等あらゆる機会をとらえて、事業主体である国や中日本高速道路（株）に対し、整備促進を強く働きかけます。また、地方が必要としている道路整備を計画的に進めていくため、関係府県や市町等と連携して道路の必要性を訴えていきます。

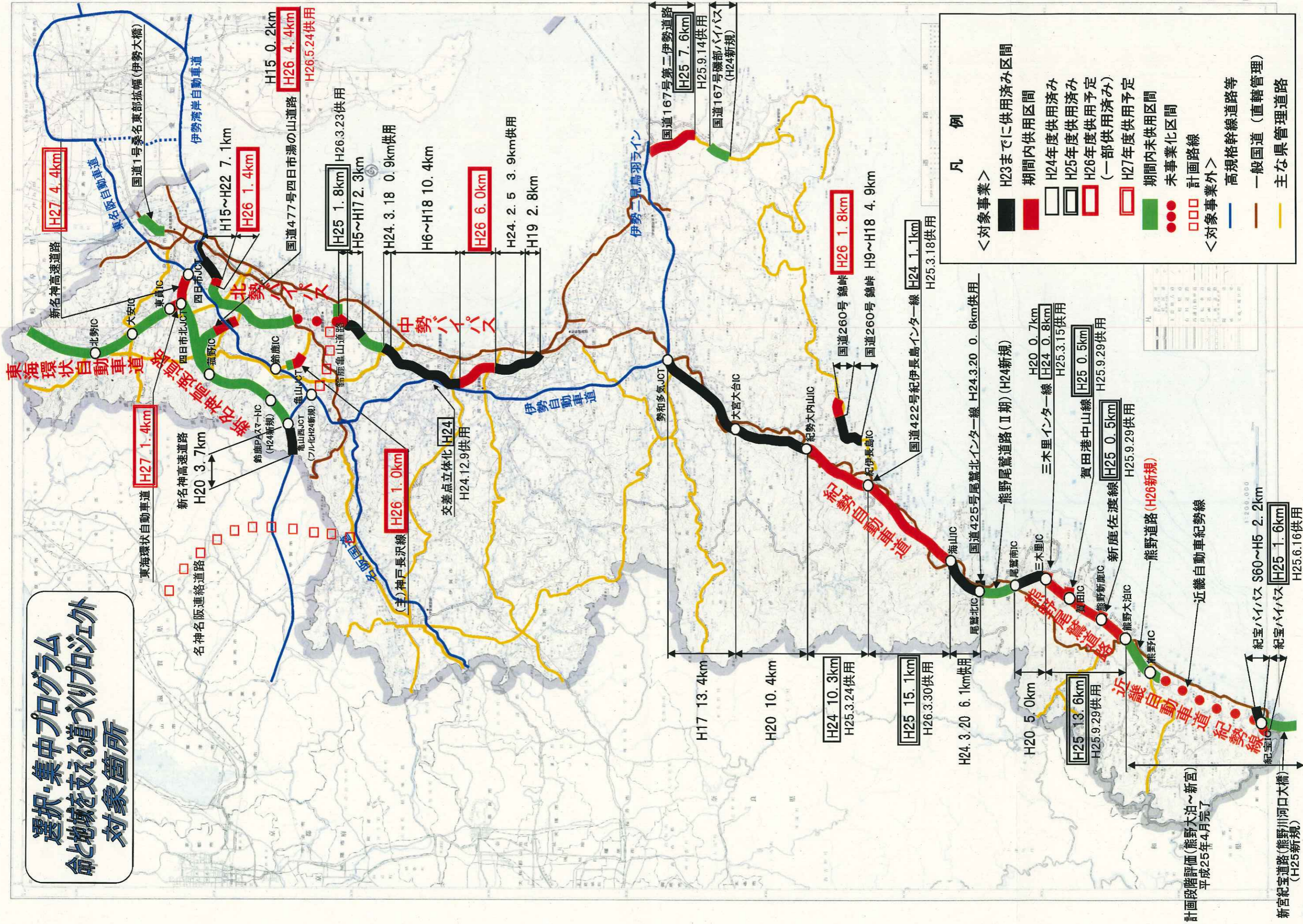
〈翌年度〉

- ① 大規模災害などから県民の命と暮らしを守り、集積する産業や魅力ある観光など地域を支えるため、新名神高速道路、東海環状自動車道、北勢バイパス、中勢バイパスや桑名東部拡幅（伊勢大橋架替）等の整備促進を図るとともに、これらと一体となった道路ネットワークの形成に向けた県管理道路の整備を推進します。特に、プロジェクトの目標値達成を目指し、新名神高速道路（四日市JCT～四日市北JCT）および東海環状自動車道（四日市北JCT～東員IC）の平成27年度中の確実な完成に向け、整備促進を図るとともに、関連する県管理道路等の整備を推進します。
- ② 新たな道路網の構築に向け、北勢バイパスの未事業化区間の早期事業化や、鈴鹿亀山道路をはじめとする地域高規格道路の調査・検討などを進めます。また、平成33年の国民体育大会開催に向け、会場へのアクセスを向上させる道路整備等を順次進めます。
- ③ 地域の悲願でもある紀伊半島のミッシングリンク解消に向け、「新たな命の道」として熊野尾鷲道路（Ⅱ期）および新宮紀宝道路、熊野道路の整備促進を図るとともに、未事業化区間（熊野IC（仮

称) ~紀宝 I C (仮称) の早期事業化に向けた取組を推進します。

- ④ 引き続き高規格幹線道路および直轄国道に関して、国などに対し、整備促進を強く働きかけけるとともに、地方が必要としている道路整備を計画的に進めていくため、関係府県や市町等と連携して道路の必要性を訴えていきます。

**選択・集中プログラム
命と地域を支える道づくりプロジェクト
対象箇所**



凡例

<対象事業>

- H23までに供用済み区間
- 期間内供用区間
- H24年度供用済み
- H25年度供用済み
- H26年度供用予定 (一部供用済み)
- H27年度供用予定
- 期間内未供用区間
- 未事業化区間
- 計画路線

<対象事業外>

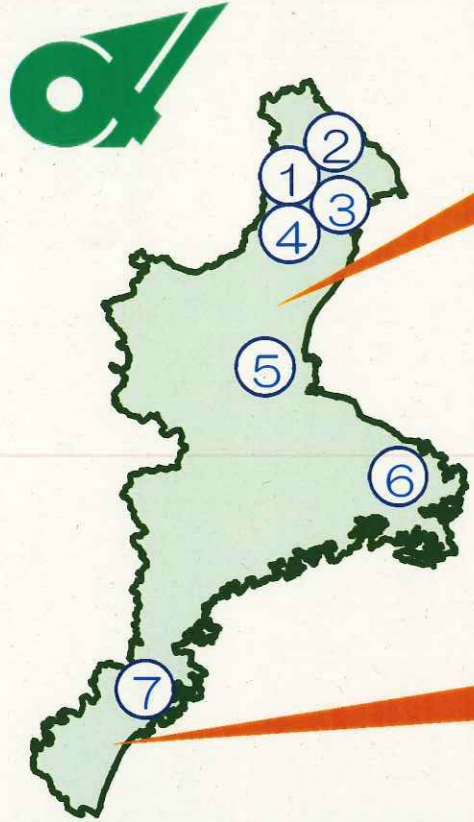
- 高規格幹線道路等
- 一般国道 (直轄管理)
- 主な県管理道路

計画段階評価 (熊野大泊～新宮)
平成25年4月完了

新宮紀宝道路 (熊野川河口大橋)
(H25新規)

<進む幹線道路整備>

三重県
Mie Prefecture



MieMu みえむ 2014.4.19 OPEN!
Mie Prefectural Museum, Japan
始動！三重県総合博物館
Mie Museum

三重県総合博物館
(MieMu) 開館

熊野古道世界遺産登録
10周年

地域の安全・安心を支えるとともに、集積する産業や魅力ある観光など、地域の今ある力を生かした三重づくりを支える基盤としての幹線道路の整備を進めています。

① 新名神高速道路

県内最長となる野登トンネル東坑口付近
平成26年8月1日現在
用地取得率(全体) 約95%
工事発注率(全体) 約90%

至 亀山西 至 菟野 至 四日市

野登トンネル掘削状況

朝明川付近から菟野方面を望む

平成30年度までの全線供用予定

② 東海環状自動車道

至 四日市 三狐子川 東員IC 至 大安・北勢

東員IC付近から四日市方面を望む

四日市北JCT~東員IC 平成27年度供用予定

③ 国道1号 北勢バイパス

至 鈴鹿 市道日永八郷線 北勢バイパス 四日市ハイテク工業団地 至 川越

四日市工業団地付近から鈴鹿方面を望む

平成26年度一部供用予定

④ 四日市インターアクセス道路

高角IC付近から菟野方面を望む 至 菟野 四日市湯の山道路 東名阪自動車道 四日市湯の山道路 吉沢IC 高角IC 吉沢IC付近から四日市方面を望む

四日市湯の山道路開通式(H26.5.24)

平成26年5月24日一部供用

⑤ 国道23号 中勢バイパス

至 鈴鹿 至 松阪 国道165号 国道23号 伊勢二見鳥羽ライン 松下JCT付近から鳥羽方面を望む

鈴鹿(稻生)工区開通式・開通イベント
平成26年3月23日一部供用、平成26年度一部供用予定

⑥ 伊勢志摩連絡道路

第二伊勢道路 至 鳥羽南・白木IC 至 鳥羽IC 至 伊勢IC 伊勢二見鳥羽ライン 松下JCT付近から鳥羽方面を望む

第二伊勢道路開通記念ウォーク

平成25年9月14日 第二伊勢道路全線供用

⑦ 紀勢自動車道・熊野尾鷲道路

紀勢自動車道 熊野尾鷲道路 至 尾鷲 赤羽川 至 松阪 赤羽川付近から尾鷲方面を望む

熊野尾鷲道路開通式(H25.9.29)

熊野尾鷲道路 平成25年9月29日(三木里~熊野大泊)
紀勢自動車道 平成26年3月30日(紀伊長島~海山) 供用